



(I) 中央銀行の役割

世界各国は、国全体の立場から金融活動を行う代表的な銀行として、政府から独立した**中央銀行**をもっている。日本の中央銀行は日本銀行であり、物価安定や金融システムの安定を主な任務としている。

- ①^[1]]: 銀行券（紙幣）を発行できる唯一の銀行
- ②^[2]]: 市中銀行に対して、国債や手形の売買をおこなったり、預金準備金の受け入れなどをおこなったりする。**※一般の国民や企業とは取引しない！**
- ③^[3]]: 国のお金の管理や出し入れ、政府の代理として為替市場への介入などを担う

(II) 金融政策

■ **金融政策** 中央銀行 が _____ を通して、景気や物価の安定をはかる政策

※^[4]]: 企業や家計など民間が保有する通貨量の合計



- ・不況時⇒通貨量(マネーストック)を増やし、景気を上向かせる(金融緩和)
- ・好況時⇒通貨量(マネーストック)を減らし、景気の過熱を抑える(金融引き締め)

自ら供給する通貨量(^[5] _____)を操作して、適切な通貨量になるよう調整する

*方法Ⅰ^[6]]: **国債や手形の売買を通して市中銀行に影響を与える**

例 【不況時の場合】→ 通貨量を増やしたい。

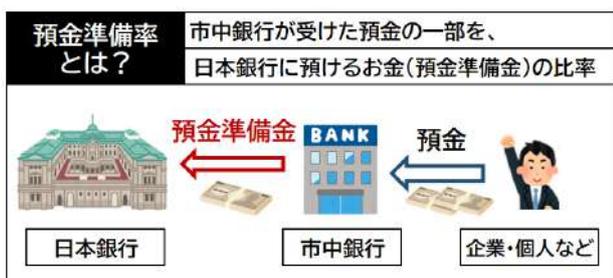


- ①日本銀行が**国債や手形を市中銀行から買い取る**
= ^[7] _____]
- ②市中銀行は資金が増え、お金が貸しやすくなる
- ③企業や家計など社会全体の通貨量が増加する

※この公開市場操作が、現在の日本において中心的な金融政策である。好況時には真逆の方法をとればよい。

*方法Ⅱ^[8]]: **市中銀行が日銀へ預ける預金準備率を操作し、資金量に影響を与える方法**

例 【不況時の場合】→ 通貨量を増やしたい。



- ①日本銀行が**預金準備率**を^[9] _____]
- ②市中銀行は従来に比べて日銀に預ける資金が減る
- ③資金量が安定することで、お金を貸しやすくなる
- ④企業や家計など社会全体の通貨量が増加する

※この預金準備率は、1991年以降変更されておらず、現在の日本では金融政策として実施していない。

*方法Ⅲ **公定歩合操作** ←金利の自由化に伴い、意味の為さないものとなる。現在は実施していない。

(Ⅲ)金融の自由化(金融の歴史)

[従来] 政府がさまざまな規制で自由競争を制限し、金融機関を保護 = [10]

その結果… どの銀行も差が無く、競争力は低下

1980年代 金融の[11] [12]が進み、国際競争が激しくなる

1990年代 バブル崩壊の影響で、巨額の[13]に苦しむ銀行も出現。



国際競争力のある銀行が求められるようになる

1990年代後半～ [14] 構想：[15] 内閣

①金利や外国為替取引の自由化

②銀行・証券・保険の相互参入が一部可能

③独占禁止法改正により、金融機関の持株会社が解禁 ⇒ **自由化・国際化が進む**

・大手銀行が合併を繰り返し、三大メガバンクを中心に再編が進む。

・新規参入の銀行が増加。(例)セブン銀行、楽天銀行など

Q,三大メガバンクってどこ？

cf.[16] … 金融機関が破綻した場合、国が1人につき _____ 円とその利息を上限とする預金の払い戻しを保証する制度

※「保証してもらえて嬉しい！」ではなく、「一定金額以上は自己責任で！」という制度

cf.[17] … バーゼル合意に基づき、国際業務を行う銀行には **8%***以上の自己資本比率を守るよう求めた規制。自己資本比率が高い程、財務的安定度が高いといえるが、これを守ろうとし過ぎて銀行の貸し出しが慎重になる[18] という現象が起こる。(※2019年から10.5%以上に変更)

(Ⅳ)非伝統的金融政策

1990年代以降、バブル崩壊後に最悪の経済状況となる中で、これまでとは異なる大胆な方法でデフレ脱却を図った。これらの金融政策を総称して**非伝統的金融政策**という。

①[19] (99~00,01~06,10~13)
無担保コールレートをゼロに近づけることでお金の回りを活性化し、社会全体の通貨量を上げていくねらいで実施。



②[20] (01~06)
操作目標を金利に置くのではなく、通貨量の増加に切り替え
⇒日銀に潤沢な資金があれば、資金に余裕をもたせられる
⇒社会全体へ資金を大量に供給し、デフレ脱却を目指す



③[21] (2013~)
異次元の金融緩和と巨額の買いオペレーションにより、通貨量の増加を目指した政策



④[22] (2016~)
市中銀行から日銀へ預金することが損になる状況を作り、企業へ貸し出すよう誘導する





(I) 中央銀行の役割

世界各国は、国全体の立場から金融活動を行う代表的な銀行として、政府から独立した**中央銀行**をもっている。日本の中央銀行は日本銀行であり、物価安定や金融システムの安定を主な任務としている。

- ①^[1] **発券銀行**]: 銀行券(紙幣)を発行できる唯一の銀行
- ②^[2] **銀行の銀行**]: 市中銀行に対して、国債や手形の売買をおこなったり、預金準備金の受け入れなどをおこなったりする。**※一般の国民や企業とは取引しない!**
- ③^[3] **政府の銀行**]: 国のお金の管理や出し入れ、政府の代理として為替市場への介入などを担う

(II) 金融政策

■ **金融政策** 中央銀行 が **通貨量の調整** を通して、景気や物価の安定をはかる政策

※^[4] **マネーストック**]: 企業や家計など民間が保有する通貨量の合計



- ・不況時⇒通貨量(マネーストック)を増やし、景気を上向かせる(金融緩和)
- ・好況時⇒通貨量(マネーストック)を減らし、景気の過熱を抑える(金融引き締め)

自ら供給する通貨量(^[5] **マネタリーベース**)を操作して、適切な通貨量になるよう調整する

*方法Ⅰ^[6] **公開市場操作**]: 国債や手形の売買を通して市中銀行に影響を与える

例 【不況時の場合】→ 通貨量を増やしたい。

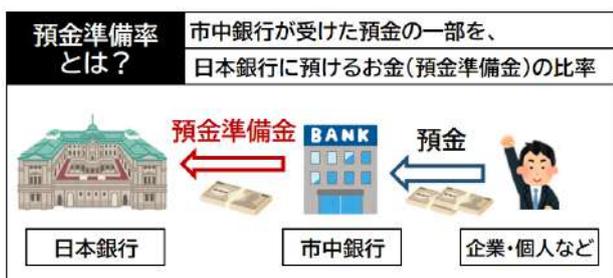


- ①日本銀行が国債や手形を市中銀行から買い取る
=^[7] **買いオペレーション**]
- ②市中銀行は資金が増え、お金が貸しやすくなる
- ③企業や家計など社会全体の通貨量が増加する

※この公開市場操作が、現在の日本において中心的な金融政策である。好況時には真逆の方法をとればよい。

*方法Ⅱ^[8] **預金準備率操作**]: 市中銀行が日銀へ預ける預金準備率を操作し、資金量に影響を与える方法

例 【不況時の場合】→ 通貨量を増やしたい。



- ①日本銀行が**預金準備率**を^[9] **下げる**]
- ②市中銀行は従来に比べて日銀に預ける資金が減る
- ③資金量が安定することで、お金を貸しやすくなる
- ④企業や家計など社会全体の通貨量が増加する

※この預金準備率は、1991年以降変更されておらず、現在の日本では金融政策として実施していない。

*方法Ⅲ **公定歩合操作** ←金利の自由化に伴い、意味の為さないものとなる。現在は実施していない。

(Ⅲ)金融の自由化(金融の歴史)

[従来] 政府がさまざまな規制で自由競争を制限し、金融機関を保護 = [10 **護送船団方式**]

その結果… どの銀行も差が無く、競争力は低下

1980年代 金融の[11 **国際化**]・[12 **自由化**]が進み、国際競争が激しくなる

1990年代 バブル崩壊の影響で、巨額の[13 **不良債権**]に苦しむ銀行も出現。



国際競争力のある銀行が求められるようになる

1990年代後半～ [14 **日本版金融ビッグバン**]構想：[15 **橋本龍太郎**]内閣

- ①金利や外国為替取引の自由化
- ②銀行・証券・保険の相互参入が一部可能
- ③独占禁止法改正により、金融機関の持株会社が解禁 ⇒ **自由化・国際化が進む**

- ・大手銀行が合併を繰り返し、三大メガバンクを中心に再編が進む。
- ・新規参入の銀行が増加。(例)セブン銀行、楽天銀行など

Q,三大メガバンクってどこ？

三菱UFJ・三井住友・みずほ

cf.[16 **パイオフ制度**]・・・金融機関が破綻した場合、国が1人につき **1000万**円と

その利息を上限とする預金の払い戻しを保証する制度

※「保証してもらえて嬉しい！」ではなく、「一定金額以上は自己責任で！」という制度

cf.[17 **BIS規制**]・・・バーゼル合意に基づき、国際業務を行う銀行には **8%***以上の自己資本比率を

守るよう求めた規制。自己資本比率が高い程、財務的安定度が高いといえるが、これを守ろうとし過ぎて

銀行の貸し出しが慎重になる[18 **貸し渋り**]という現象が起こる。(※2019年から10.5%以上に変更)

(Ⅳ)非伝統的金融政策

1990年代以降、バブル崩壊後に最悪の経済状況となる中で、これまでとは異なる大胆な方法でデフレ脱却を図った。これらの金融政策を総称して**非伝統的金融政策**という。

①[19 **ゼロ金利政策**] (99~00,01~06,10~13)

無担保コールレートをゼロに近づけることでお金の回りを活性化し、社会全体の通貨量を上げていくねらいで実施。



②[20 **量的緩和政策**] (01~06)

操作目標を金利に置くのではなく、通貨量の増加に切り替え

⇒日銀に潤沢な資金があれば、資金に余裕をもたせられる

⇒社会全体へ資金を大量に供給し、デフレ脱却を目指す



③[21 **量的・質的金融緩和**] (2013~)

異次元の金融緩和と巨額の買いオペレーションにより、通貨量の増加を目指した政策



④[22 **マイナス金利政策**] (2016~)

市中銀行から日銀へ預金することが損になる状況を作り、企業へ貸し出すよう誘導する

